

近年の豪雨災害における避難「成功事例」の分析 How people saved their lives in recent heavy rainfall disasters?

○矢守克也
○Katsuya YAMORI

When evacuation behaviors in flood and landslide disasters are investigated, previous researches are more likely to choose and focus on cases with more fatalities/causalities, that is “fatalistic cases.” However, we need to shed more light on the following two types of cases, “critical cases” and “potential cases,” in order to achieve theoretically firmer foundation of evacuation behaviors and to reduce damages more effectively. In “critical cases,” people barely saved their lives under critical conditions, thus providing more direct lessons for survivability. “Potential cases” is also important because they are candidates for “fatalistic cases” in the next disasters, although very few people recognize this potential but urgent risk.

1. 事例を「選択」すること

いかなる知的営みも、考慮すべき全事例に目を向けることはできないので、どの事例に注目するかに関する「選択」は、きわめて重要な意味をもつ。つまり、この「選択」は、十分周到に行われる必要がある。ところが、この重要事項について、従来の避難研究は大きな疑いを差し挟むことなく、犠牲者が（より）多く出た事例を「選択」してきた。被害軽減を目標とする避難研究にとって、これは至極当然の「選択」に見える。しかし、そこに落とし穴があるのではないか。災害頻発を背景に、被害事例（だけ）をアドホックに「選択」し、それに対する一時的な関心を次々に遷移させていく形で事例研究を重ねることは、避難学の構築にとって本当にベストシナリオだろうか。

2. FACP モデル

この視点に立って、事例「選択」のための仮説的なモデルを提示したい(本稿ではタイプAは略)。

タイプ F (Fatal: 「致命的・破壊的」) は、災害現象が顕在化し、人的被害が生じた事例（地区）のことである。上述の通り、従来の避難研究は、このタイプ F に注意を向け、それを研究すべき対象として「選択」強い傾向性をもっている。

タイプ C (Critical: 「死活的・決定的」) は、「致命的」と同等の災害現象が顕在化したものの、人的被害が生じなかった事例のことである。死活(生死)を決定づけた要因を何らかの意図的な選択や判断の中に求めようとするのが、いわゆる「成功事例」分析であり、避難研究にとって意味ある知

見、すなわち、被害軽減の知恵やノウハウが、「致命的」な事例より直接的な形でもたらされる点で、今後、より注目されてよいタイプの事例である。なお、避難当事者が多くの場合、それが「ヒヤリハット」であったと自覚・意識している点も、このタイプの特徴である。

タイプ P (Potential: 「潜在的・陰に隠れた」) は、災害現象が顕在化せず、人的被害も（ほとんど）生じなかったが、「致命的」や「死活的」と同等の災害現象の発生が十分に考えられた事例である。ただし、その可能性は、専門家などを除いてほとんど自覚・意識されていない。つまり、社会的に「ヒヤリハット」にすらなっていないという点に特徴がある。しかし、これらの事例は、次に F 事例になりうる事例であり、今後、アンサンプル予測などを通して、その存在をより客観的な形で同定するとともに、当該事例における減災対策強化に役立てる必要がある。

表1 災害避難の事例を整理するための FACP モデル

	災害現象が顕在化 大規模な浸水、土砂災害などが発生	災害現象が顕在化せず 左のような事象には至らず
人的被害あり	【フェイタル=FATAL】 「致命的な、破壊的な」 ・西日本豪雨（2018年）における倉敷市真備町、呉市など ・もちろん重要。牛山素行氏（静岡大教授）の犠牲者調査など ・ただし、ここに世間の目（研究、報道）が集中するきらいも。	【アクシデンタル=A ACCIDENTAL】 「不慮の、思いがけない」 ・都賀川事故（2008年）、玄倉川事故（1999年）など ・該当するケースは少ないはず。 ・他に、田畑、用水路の点検中の犠牲などのケースも該当？
人的被害なし	【クリティカル=C CRITICAL】 「死活的な、決定的な」 ・九州北部豪雨（2017年）における朝倉市平穂地区、西日本豪雨における京丹波町上乙見地区など ・いわゆる「成功事例」。ただし、偶然の要素が併存し、それが生死（死活）を決定づけている場合も。 ・当事者が自覚している「ヒヤリハット」。	【ポテンシャル=P POTENTIAL】 「潜在的な、陰に隠れた」 ・西日本豪雨や2013年台風18号（史上初の特別警報）における京都府桂川下流域ほか ・次の災害で「フェイタル」になりかねない潜在的予備軍 ・一部の行政担当者、専門家などを除いて「ヒヤリハット」だとの意識（自覚）がない点が課題